

## 形容詞に「です」をつける

「そんな細かいことまで……」と思われるかもしれませんが、国語教師の性（さが）なのでしょう。最近日本語で気になることがあります。

それは、形容詞に「です」をつけることです。形容詞とは、様子や状態を表し、言い切りの形が

「い」で終わるものです。「うれしい」「悲しい」「明るい」「固い」などです。「（）」「ある」「か」「ない」かの）ない」も形容詞です。

これに「です」をつけると「うれしいです」「悲しいです」となります。この言い方に違和感を感じない人は、恐らく日常で使っているのでしょうね。現在は多くの日本人が、特に話し言葉でこういう言い方をするので、間違いだとは言えないようです。

確かに、言葉は時代と共に変化しますから、この言い方が生まれても不思議ではありません。しかし、私は何だかしっくりこないものを感じます。

幼い子が「うれしいです」「よかったです」などと書いていけば、ほほえましくなります。一生懸命書いたのだなあと応援したくなってきます。しかし、大人がこのように書くと、幼さや未熟さを感じてしまいます。その二つの感じ方の境目が、中学時代だと私は考えています。

したがって、「すばらしいです」と書くのは小学生までにして、中学生であれば「すばらしいと思います」「すばらしいと感じました」「さらに、文章の文末を常体にそろえ、「すばらしい」と言い切る形にすべきだと思います。

書籍の中の日本語、コンクールで入賞する文章の中の日本語、新聞や雑誌の中の日本語、そしてアナウンサーの語る日本語の中には、形容詞に「です」をつけた言い方は、まず見当たりません。生徒の皆さんは、そろそろ幼い言い方を卒業して、大人としての表現を身につけるように心がけてみてくださいね。慣れてしまえば、それが力になります。慣れるまでは面倒かもしれないけどね。

（五月三十日の分）